NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会
# MANO a MANO
“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

## 「『脅す』ということ」

当会理事
朝比奈クリニック　朝比奈 崇介［医師］

「脅す」とはどういう意味だろう。国語辞典的には「恐れさせること」なのだが私達の糖尿病の療養指導の世界では恐らく患者に非常に進んで悪化した合併症を引き合いに出して「こうなるよ」と、言うことだと認識されていると思う。

起こる確率が高いことを理由に守らせようとするのは「脅し」とは呼ばないで客観的な予測の情報と呼ぶことが可能だ。しかし、現実的にはまだ何とも言えない、あるいは起こる確率がさほど高くない事柄を理由に守らせようとするのは脅しと呼べると思う。例えば罹病年数20年、ずっとHbA1c8～9％程度あった糖尿病の患者の血清Crが3.0mg/dLまであがってきた時に、このままの生活のやり方だと2年以内に透析だよ、というのは客観的予測である。しかしまだ罹病年数が1，2年の患者がHbA1c8％程度の時にそんなことしていると透析になるよ、というのは脅しである。

もちろんどのような患者に対しても客観的な害の予測を伝えることはいつでも必要である。しかし療養指導上一番問題なのはその情報を流す医療者の意識/感情なのだ。これを流す医療者が患者に行動を変えさせるために患者にとって有益な情報としてフラットな意識で流すのか、患者を脅して/恐れさせて感情的に行動を変えさせようとする「これでどうだ」感のこもった武器として流すのか、である。

脅すことによって医療者が期待する「功」は恐らく患者の行動が「納得して」変わることである。これは一般的にみて少しくらいはあり得るであろう。そのような合併症が起こりうるという信念（健康信念仮説の罹病性の信念）に気がついて行動が変わる患者はいる。しかし問題は「罪」の方である。場合によってはそんなことはあり得ないと思うように努力すること（否認）が起こったり、怖くなって通院しなくなったりする可能性がある（多くの医療者は来なくなった患者の理由を知ろうとはしないので反省しようがない）。それゆえ合併症が悪化して、このままでは予後が悪くなることを患者に伝える時にはその言い方を考えなければならないと思う。

そうであるのに現実では患者を納得させようとするのではなく、患者が医療者の思うままにならなくて、それ以外の方法が思いつかない時に患者を脅しているケースが一番多いような気がする。母親が我が子に「勉強しないとお父さんみたいになるよ」と同じである。もし、脅す/怒ることによって人がいうことを聞くのであれば皆さんのお子さんはさぞや良く勉強して、自発的にお手伝いをしていいお子さんになっていることだろう。

一般的に親が「怒る」ということが子供にとって納得がいく内容であれば恐らく彼らはそれに従うだろう。しかし納得がいかない場合はどうなるか。「取り入れ（introjection）」を行うことになる。これは表面上は判ったふりをする、従ったふりをする、ということである。強く脅す/怒ればそれだけ怖がって言うことを聞くのではなく、それだけ「否認」行動が強くなり、嘘をつくのが巧妙になる、ということなのだ。彼氏と深夜デートしていて午前様になっても、友人が酒で吐いて介抱していて遅くなったと言い訳するのと同様に、本当は宴会で飲み食いすることが好きで積極的に参加しているのに、我々医療者には「私が血糖が高いのはどうしても参加しなければいけない接待の席が多すぎて仕方がなかったのです」と言う患者になるだけなのだ。

皆さんは何の目的で患者を脅すのか。

※次回6月号巻頭言は、引き続き、朝比奈先生より「患者のためを思って？」というタイトルで本稿の続編をご寄稿いただきます。

**読んで単位を獲得しよう**

西東京糖尿病療養指導士（LCDE）は、更新のために5年間において50単位を取得する必要があります。当会会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、1年につき2単位（5年間で10単位）を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
（「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出しております。）

**問題**　持続皮下インスリン注入療法（CSII）で、正しいのはどれか、1つ選べ。　**（答えは6ページにあります。）**

1. CSIIに用いるインスリンは超速効型と持続型溶解インスリンである。
2. 注入セットの交換は入院して行う。
3. CSII使用患者は浴槽での入浴をさける必要がある。
4. Bolusインスリンを超速効型インスリン使用の場合は食前30分まえに注入する。
5. 1日の全Basalインスリンは全注入インスリンの40～60％で残りはBolusインスリンである。

## 研究会等の実施報告　第39回 糖尿病食を作って食べて学ぶ会

平成27年1月30日（金）立川市女性総合センターアイム
平成27年2月24日（火）ルミエール府中

**【報告】 当会評議員　登録管理栄養士　医療法人社団糖和会　近藤医院　　飯塚 理恵［管理栄養士］**

『第39回 糖尿病食を作って食べて学ぶ会』を1月30日立川、2月24日府中で開催し、計41名の参加がありました。立川の調理実習の日には雪が降ったにもかかわらず19名の方にご参加いただきました。

今回は「油について考えよう！」というテーマで、最近話題の油についての説明と、食事の中の見える油と見えない油についてのレクチャーをしました。献立は油を抑えた中華料理を実習しました。参加者からは「少ない油でもおいしくできた。」「野菜がいっぱいの献立で満足できた。」「ごま団子が美味しかった。また作ってみたい。」などの声が聞かれました。次回第40回調理実習は4月28日立川、5月29日府中で開催します。内容は洋風料理で、リゾットと野菜がたっぷりなオープンオムレツを実習します。また、忙しいときなどにあると便利な食材についての紹介をします。第41回の調理実習は7月、8月に実施します。日程と内容の詳細は事務局にお問い合わせください。お勧めしたい患者様が施設にいらっしゃいましたら是非お声かけください。多くのご参加をお待ちしています。

**今回のメニュー**
- 胚芽精米ごはん
- 青椒肉絲
- 花野菜のカニあんかけ
- 塩クラゲときゅうりの和え物
- ごま団子

**【お知らせ】**

3月24日に、私たちが10年間行ってきたこの調理実習のレシピと資料をまとめた本が、『糖尿病 作って食べて学べるレシピ-療養指導にすぐに使える 糖尿病食レシピ集＆資料集』というタイトルで医学書院から発売されます。是非一度お手に取ってご覧いただきまして、療養指導、栄養指導でご活用ください。どうぞ宜しくお願いします。

## 研究会等の実施報告　第36回 糖尿病連絡会

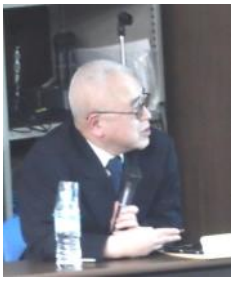
平成27年2月26日（木）
公立昭和病院

2月26日（木）、公立昭和病院 大講堂において、『第36回糖尿病連絡会』が開催されました。当日は、31名のご参加をいただき、会も盛況に終えることができました。

講演1として、薫風会 山田病院 認知症疾患医療センターセンター長 竹中秀夫先生から、「認知症疾患医療センターの現状と課題」をテーマに北多摩北部医療圏における認知症疾患医療センターの現状と課題について最新の情報をご解説いただきました。認知症鑑別診断と初期対応や受け入れ側の人材不足解消に向けた人材育成の重要性を熱く語っていただきました。

特別講演として、伊藤内科小児科クリニック 院長 伊藤眞一先生から「糖尿病患者の認知症への取り組み」をご講演いただきました。糖尿病患者さんの高齢化による孤独死をきっかけに糖尿病内科医が認知症に取り組む必要性や医療連携におけるかかりつけ医・糖尿病専門医と認知症専門施設のそれぞれの役割の重要性ついてお話いただきました。ご講演の中で認知症患者さんが抵抗なく専門施設を受診いただくコツやインスリン導入時の具体的な実例についても大変分かり易くご解説いただきました。

竹中先生



伊藤先生

## 研究会等の実施報告　第12回 西東京インスリン治療研究会

平成27年2月28日（土）
パレスホテル立川

『第12回 西東京インスリン治療研究会』は、「膵島関連抗体をめぐる話題」をテーマに2月28日（土）パレスホテル立川にて開催されました。

一般演題では、「胸腺腫を伴った重症筋無力症を合併したSPIDDMの症例について」という演題で杏林大学医学部付属病院の石本麻衣先生に、「IA-2抗体陽性、GAD低抗体価の中年女性2例」という演題で東京医科大学八王子医療センターの梶明乃先生にご講演いただきました。いずれも実臨床でご経験された症例ということもあり、質疑応答の際には活発な討議が繰り広げられました。特別演題では、東京都済生会中央病院の島田朗先生と長崎みなとメディカルセンター市民病院の川﨑英二先生をお招きし、膵島関連自己抗体に関する最近の知見など学会さながらの貴重なご講演をしていただきました。

今回は計67名の医師・コメディカルの方々にご出席をいただき無事閉会いたしました。

次回は2016年3月上旬に吉祥寺にて開催予定です。次回のテーマは「インスリンと経口血糖降下薬の併用を考える」となっております。糖尿病治療薬が多様化する現代におけるインスリンの役割について再度検討をしていきたいと考えております。次回も多数の医師及びコメディカルの先生のご参加をお待ちしております。

## 研究会等の実施報告　かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会　第4回例会

平成27年3月4日（水）
国分寺労政会館

**【報告】 当会評議員　かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会代表　たもり内科クリニック　多森 芳樹 [医師]**

秘かに（？）始まった実地医家による・実地医家の為の糖尿病診療の勉強会ですが、今回、なんとか、第4回をむかえられました。支えてくださっている先生方・スタッフの皆様方ありがとうございます。

さて、『かかりつけ医の糖尿病療養指導を考える会 第4回例会』ですが、平成27年3月4日、国分寺労政会館で、13名の先生方のご参加で開催いたしました。

形式は前回同様、症例検討。症例を通して問題点を探り、解決策を導き出せるよう議論いたしました。症例は、福生の高村クリニックの高村先生から、ご提示いただきました。

症例1：年齢は確か40－50代女性，食事療法はうまくいかない・・・というよりも、“どうせ私なんかがやってもうまくいかない”とあきらめぎみ，糖尿病療養歴のなかで、これをやったらうまくいった、という成功体験がない，ただただ、処方薬のみがふえていく，体重も増えていく，気が付けば、すべての内服薬がマックスドーズ！

このような患者さん、受診されて来られませんか？

・この患者さんにどのように接していけばいいのか？
・食事療法に関心をもってもらえる方策はあるのか？
・食欲がですぎない薬の使い方はあるのか？

出席いただいた先生方の知恵と経験から、これという結論のでる話ではありませんが、議論いたしました。この1症例で、予定時間がきてしまい、今回も、1症例のみの症例検討となりました。

7～9月頃になると思いますが、本勉強会の第5回を行います。ご自身で迷われた症例・気になる症例をもってきていただくのは、大歓迎です！！！糖尿病診療・療養指導に関しての、皆様の忌憚のないご意見をお待ちしております。

## 研究会等の実施報告

**NPO法人西東京臨床糖尿病研究会・糖尿病災害対策委員会**
**東日本大震災から4年目を迎えて　～いま私たちが考えること～**

平成27年3月11日（水）
立川市女性総合センターアイム

### 【報告】 当会理事　糖尿病災害対策委員会委員長　緑風荘病院　　西村 一弘 [管理栄養士]

我々は東日本大震災を経験し、その翌年の3月11日から毎年医療者向けの「災害対策研修会」を行って参りました。過去2回は被災地での医療支援の経験者からの経験談や、『西東京糖尿病災害医療プロジェクト』の成果物である「糖尿病災害医療マニュアル」の紹介や解説などを行い、糖尿病災害医療を学ぶ研修会を実行しました。

今回は当会担当理事の宮川高一先生の進行で、いま私たちがかんがえることをテーマに、国際緊急支援隊の看護師である鎌野倫加先生や、公益社団法人東京都医師会災害対策の中心人物である猪口正孝副会長、公益社団法人東京都薬剤師会の大木一正常務理事、公益社団法人東京都栄養士会会長の立場で私、西村一弘から、それぞれの立場での糖尿病災害医療に対する現在の対策や、今後の方向性について各組織がどのようなことを行い、これから何を目指しているのかについて、ご講演をいただきました。その後、参加者を交えたディスカッションを行い、東日本大震災から4年目を迎えたこの日に糖尿病災害医療について活発な討議が行われました。最後に当会の貴田岡正史理事長より、年数を重ねても今後は東日本大震災の教訓を風化させないように、糖尿病災害医療啓蒙の継続の必要性を述べられました。

鎌野先生

猪口先生

大木先生

### 【参加者の声】 当会会員　のむらクリニックスクエア　　野村 敦宣 [医師]

甚大な被害をもたらした東日本大震災からあっという間に4年が過ぎ、あれ程の衝撃も被災地から遠く離れた者にとっては薄れつつあることは否めません。しかし、被災地では現状の医療水準を維持することすら難しく、震災前に存在した医療連携の問題は、復興の妨げとして継続している状況を知り、日常の他職種の連携を深めることこそが、災害時のセーフティーネットになることが理解できました。

また被災者の救護は、その数がピークに達する震災発生4～5日までに意識が向きがちですが、慢性疾患の症状悪化によりその後も救護を要する人が継続して存在する事実は、医療従事者がいかに二次被害を食い止めることができるかにかかっており、そのために糖尿病災害時サバイバルマニュアルを有効活用する準備を怠りなく進める必要性を痛切に感じました。

東京都と東京都医師会が連携して、大規模災害に対する対策を着実に進められていることは心強い限りです。しかし、災害には想定外の事態は避けられません。その影響を一番被るのは、災害弱者である患者さんです。我々医療従事者の作る太い絆こそ、災害弱者を守る最も重要なものであると深く認識する一日となりました。

## 研究会等の実施報告

### 第18回 TAMA生活習慣病フォーラム

平成27年3月14日（土）
調布市文化会館たづくり

**【報告】 当会理事　TAMA生活習慣病フォーラム代表　かたやま内科クリニック　　片山 隆司 [医師]**

平成27年3月14日（土）に調布市文化会館たづくりにて、『第18回 TAMA生活習慣病フォーラム』が開催されました。テーマは「低血糖予防！～厳格な管理の光と影を考える～」。

第Ⅰ部では聖マリアンナ医科大学 代謝・内分泌内科 田中逸先生より、低血糖を起こす原因や病態について幅広く解説していただきました。血糖値を把握するために使用されているSMBGやCGMの限界や注意すべき点などもご教示いただき、あらためて低血糖を予防する重要性を認識できました。第Ⅱ部では武蔵村山病院 外来看護師（CDE）木村敦子先生より、低血糖の患者さんを減らすため外来看護師としての取組み、例えば 患者さんが相談しやすい環境作りなど普段から実施している事を具体的にご教示いただきました。第Ⅲ部のパネルディスカッションでは、おぎもと内科クリニック看護師（CDE） 野田真弓先生より1型、2型の2例の糖尿病患者さんを提示していただき、低血糖時の対応とその後の指導法を提示していただきました。パネリストからは、各職種においてできる事を提案していただき、あらためてチーム医療の重要性を確認することができました。

今回はSMBGの展示も実施し、参加者も最新のSMBG器具にふれることができました。終了後のアンケートにおいても、100％に近い方から高い満足度 次回参加希望の回答をいただき、多くの反響を得ることができました。

## 研究会等の実施報告

### 第35回 東糖協多摩ブロック糖尿病教室
### 第21回 西東京糖尿病患者会連合特別講演会

平成27年3月14日（土）
武蔵野公会堂

平成27年3月14日（土）13:00より武蔵野公会堂におきまして、『第35回 東糖協多摩ブロック糖尿病教室・第21回 西東京糖尿病患者会連合特別講演会』が88名の参加者を集めて開催されました。

相談コーナーでは、看護師・管理栄養士・健康運動療養士に日常生活のお悩みにお答えいただきました。続いて、かんの内科 院長 菅野一男先生を座長に講演1「食品交換表を使いこなしていますか？」では、緑風荘病院健康推進部栄養室 管理栄養士・健康運動療養士の藤原恵子先生より、昨年改訂になった食品交換表の情報をもとに、食事で摂るべき栄養素や栄養バランスなどをわかりやすく解説していただきました。トピックス「糖尿病の新しい治療」では、かんの内科 院長 菅野一男先生より昨年新たに糖尿病治療薬として参入したSGLT-2阻害薬や日本では未承認の脂肪吸収抑制薬の作用機序や特徴、それぞれの薬効から効果の期待できる患者さん像など、これからの糖尿病治療に加わってくるだろう新しい情報を詳しくお話いただきました。講演2「私の糖尿病体験談」では、昭和友の会 西浦奈美代様より糖尿病と付き合っていくためにご自身で決めた5つの心がけについて『糖尿病にならなければ漫然と生きてきたでしょう。糖尿病発症によってこの5つを心掛ける日を送ってこられて良かった。』と、大変前向きで明るい体験談をお話いただきました。最後に特別講演「糖尿病とともに生きるための五か条」では公立昭和病院 内分泌代謝内科 部長 貴田岡正史先生を座長に、大阪医科大学 内科学Ⅰ 教授 花房俊昭先生よりこれまで大学病院で多くの患者さんと接してこられたご経験をもとに、適切な治療を行いながら、治療や食生活をストレスとしないための糖尿病との向き合い方をわかりやすくお話いただきました。

花房先生

## 研究会等の実施報告

## 第15回 南多摩糖尿病教育研究会

平成27年3月5日（木）
日本医科大学多摩永山病院

**【報告】 当会評議員　南多摩糖尿病教育研究会代表　多摩センタークリニックみらい　藤井 仁美［医師］**

3月5日（木）日本医科大学多摩永山病院にて、記念すべき第15回が開催され、32名の医療従事者の方々に参加いただきました。

第15回テーマは「生活者としての2型糖尿病患者の治療を考える～参加討論型研修（ケースメソッド教育）を用いて～）」でした。東京学芸大学の竹鼻ゆかり教授を中心に、参加者の皆様には、あるサラリーマンの2型糖尿病患者の症例について、ケースメソッドを用いてディスカッションをしていただきました。ケースメソッドでは結論を出すのではなく、参加者が自由に発想を広げ発言をしていき、自分では考え付かなかったアプローチ方法や考え方に気付きを得ることが重要になります。今回のケースは仕事が忙しく治療に取り組む時間もなく、医療従事者への不満も募っているという設定でした。その患者さんについて「なぜできないのか」、「どのような対応策があるか」についてディスカッションの時間いっぱいまで参加者の方々から意見を出し合っていただき、本会は盛会のうちに幕を閉じました。次回は、2015年10月15日に、日本医科大学多摩永山病院にて「高齢者と糖尿病」をテーマに開催いたします。

## 連載コラム

テーマ「*糖尿病と検査*」～全3回～　*第2回*

当会会員
公立昭和病院　**櫻井 勉**［臨床検査技師］

### 検査の代表　ヘモグロビンA1c

ヘモグロビンは分子量約64,500の蛋白質で、ポリペプチド鎖2本ずつから成る4個のサブユニットで構成されています。その中でα2β2の構造をもつものがヘモグロビンAで、成人の約95％を占めています。この鎖のβ鎖N末端のバリンに糖類が結合したものがHbA1でグルコースが安定的に結合したものがHbA1cです。HbA1cを測ると過去1～2カ月前の平均血糖値が推定されますが、直近の1カ月間の関与が50％、さらにその1～2カ月前の関与が25％、それ以前の血糖値の関与が25％程度だと言われています（そのために急激な血糖変動があった場合に血糖値と乖離する場合があります）。

HbA1cの値はヘモグロビン全体のうち何％であるかを報告値としています。測定法にはHPLC（高速液体クロマトグラフィー）法、免疫法、酵素法などがありますが、きちんと値付けされた標準物質があるため、分析器が正しく校正されていれば、同じ測定法ではどこでも同じ結果となります。

他施設の結果と異なる理由として考えられるのは、①HPLC法は分離カラムを流れる時間差を基にHbA1cを測るため、電荷が同じ異常ヘモグロビンがある場合、正しく測定されないこと、②免疫法はヘモグロビンβ鎖N末端を特異的に認識する抗体を用い抗原抗体反応により測定するため、試薬により若干反応性が異なったり、高免疫グロブリン血症などで影響を受け正しく測定できないこと、③酵素法はヘモグロビンβ鎖N末端を特異的に切断し発色させることで測定しますが修飾Hb（アセチル化Hbやカルバミル化Hb）など酵素による切断が作用しにくいヘモグロビンの場合正しく測定できないことが挙げられます。それぞれに若干欠点があるため、患者さんによっては大きく値が違ってしまうことがあります。

読んで単位を獲得しよう

**答え**　5　　**下記の解説をよく読みましょう。（問題は1ページにあります。）**

**解説**　持続皮下インスリン注入療法は、インスリンポンプと呼ばれる本体と皮下に留置された細い留置管とカニューレ(注入セットと呼ばれます)を通してインスリンを注入します。使用するインスリンは速効型か超速効型が用いられます。注入セットの交換は患者自身で行います。注入セットの交換時や、留置管のみ外すことにより入浴可能です。摂食時に注入するBolusインスリンは、超速効型では食直前に行います。一般的にBasalインスリンは全注入インスリンの約40～60％とされていますが、絶食試験を用いてBasal量を設定した場合、日本人では約30％という報告もあります。
(Diabetes Care 2011; 34, 1089-1090 )

## 当会の事業・委員会活動のご紹介
## －『多摩北部医療センターとの糖尿病に関する診療連携の会』の活動－

当会理事
多摩北部医療センターとの糖尿病に関する診療連携の会代表
多摩北部医療センター
藤田 寛子［医師］

「多摩北部医療センターとの糖尿病に関する診療連携の会」は、平成9年3市(東村山・清瀬・東久留米市)糖尿病症例懇話会」として発足しましたが、より広範囲の地域からのご参加をいただき、途中で改名し現在の名称になりました。

この会の理念は、「多摩北部地域の医療者が一堂に会して個々の糖尿病患者さんについて一緒に考え、その成果を診療に反映することで、より良い糖尿病診療を実現し地域医療に貢献する」ことです。

すでに72回を超えましたが、4人の世話人が当番制で企画・進行を務め、地域の数例の症例を持ち寄って、年4回文字通り膝を突き合わせての議論を行っています。毎回の内容は担当世話人に一任されていて、症例検討だけでなく、新薬の使用経験や学会参加報告、栄養指導や服薬指導、療養指導の具体例、被災地支援活動やネットワーク作りなどの地域医療活動の報告等も行われ、自由でフレキシブルに運営されています。演者は常にこの地域の方で外部依頼の講演がないこと、医師、歯科医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士、保健師、保健所職員、看護ステーション職員など広くご参加くださっていることがこの会の特徴で、回を重ねた現在では、地域一体型多職種共同チーム医療の礎の一つとして、みなさんがしっかりと築いてくださった会に発展しています。誰でも予約なしで参加できます。

夕食後のひと時、北多摩の仲間の日々のつぶやき、ちょっとした疑問や工夫を、患者さんのお顔を思い浮かべながら共有していただけますか？皆様のご参加をお待ちしています。「との」と、あるように、主体はあなた、会場は多摩北部医療センターです。

## 研究会等のセミナー・イベント情報

◆直接事業 ◆間接事業 □その他

### ◆第28回 武蔵野糖尿病研究会　申込必要

開催日：平成２７年５月１６日（土）１４：５０～１６：３０
場　所：武蔵野プレイス　フォーラム（ＪＲ・西武多摩川線「武蔵境駅」南口徒歩１分）
参加費：５００円
申込み：同封のお申込み用紙にて、ＦＡＸでお申込みください。（締切：５月８日（金））
ＦＡＸ：03-6418-3890（宛先：富士フイルム ファーマ㈱ 曽根 / 問合せ：080-8020-3154）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：２単位
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第２群＞：0.5単位申請中　※詳細は同封の資料をご覧ください。

### ◆第18回 西東京糖尿病心理と医療研究会　若手糖尿病診療医のためのインスリンマスターセミナー　申込必要

開催日：平成２７年６月２０日（土）１５：００～１８：００
場　所：小田急ホテルセンチュリーサザンタワー２１Ｆ「アーバンルーム」（渋谷区代々木2-2-1）
対　象：医師（若手糖尿病診療医・研修医）
参加費：１，０００円　※研修医の先生は無料
申込み：同封のお申込み用紙にて、ＦＡＸでお申込みください。（締切：６月１９日（金））
ＦＡＸ：042-362-1602（宛先：ノボ ノルディスク ファーマ 曽根 / 問合せ：042-362-1601）
※詳細は同封の資料をご覧ください。

### ◆NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会　第57回 例会　申込不要

テーマ：『継続は力なり ～糖尿病治療中断を防ぐために～』
開催日：平成２７年６月２７日（土）
総会　１４：５０～１５：２０ / 例会　１５：３０～１９：００
場　所：調布市文化会館たづくり・大会議場　（京王線「調布駅」中央口・改札広場口徒歩３分）
参加費：当会会員　無料（※受付で会員証をご提示ください）/ 一般　１，５００円

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：７単位
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第２群＞：１単位申請中
☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中　※詳細は同封の資料をご覧ください。

# 研究会等のセミナー・イベント情報

◆直接事業 ◆間接事業 □その他

## ◆ 平成27年度 西東京糖尿病療養指導プログラム（CDEJ1群）　申込必要

開催日：平成２７年７月５日（日）９：２５～１６：５５（開場９：１０）
場　所：北里大学・薬学部　白金キャンパス
（ＪＲ山手線「恵比寿駅」徒歩２０分 または 都営三田線「白金高輪駅」徒歩１３分）
参加費：６，０００円（昼食代含まず）
申込み：当会ホームページの申込みフォームよりお申込みください。　※詳細は同封の資料をご覧ください。
申込み期間：平成２７年５月７日（木）～６月２５日（木）（※申込みフォームは５月７日（木）からご利用ください。）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：１０単位
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第２群＞：２単位申請中
＜教育看護系分科会＞☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第１群看護職＞：申請中
＜病態栄養系分科会＞☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第１群＞：２単位申請中
☆病態栄養専門師認定更新のための研修単位：２点
＜　薬剤系分科会　＞☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第１群＞：２単位申請中
※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は＜第１群＞＜第２群＞のどちらか一方のみ認められます。

## ◆ 西東京CDEの会　第14回 例会　申込必要

テーマ：『コンプライアンスからアドヒアランス ～自分たちの役割を、もう一度見直そう～』
開催日：平成２７年７月１１日（土）１５：３０～１８：５０
場　所：府中グリーンプラザ　けやきホール　（京王線「府中駅」北口徒歩１分）
参加費：当会会員　１，５００円 / 一般　２，５００円
申込み：当会ホームページの申込みフォームよりお申込みください。
申込み期間：平成２７年５月７日（木）～７月２日（木）（※申込みフォームは５月７日（木）からご利用ください。）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：７単位
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第２群＞：１単位申請中　※詳細は同封の資料をご覧ください。

## ◆ 第9回 西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー　申込必要

テーマ：『糖尿病運動教室をはじめてみよう！』
開催日：平成２７年７月１２日（日）現地集合８：３０　解散時間１７：００
場　所：八王子市立看護専門学校（京王バス[八０４]北館ヶ丘下車徒歩２分 または 京王線「高尾駅」南口徒歩２０分）
参加費：当会会員　４，０００円（※受付で会員証をご提示ください）　/ 一般　６，０００円（いずれも昼食代含む）
申込み：当会ホームページの申込みフォームよりお申込みください。
申込み期間：平成２７年５月７日（木）～７月２日（木）（※申込みフォームは５月７日（木）からご利用ください。）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：１０単位　※詳細は同封の資料をご覧ください。
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第２群＞：２単位申請中
☆健康運動療法士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位：＜講義＞3.3単位　＜実技＞3.0単位申請中

## □ 糖尿病診療－最新の動向[医師・医療スタッフ向け研修講座]　第35回 東京会場　申込必要

開催日：平成２７年７月１９日（日）１０：００～１５：２０
場　所：国立国際医療センター　研修棟　５階　大会議室（新宿区戸山1-21-1）
参加費：３，０００円（テキスト代を含む）
申込み：糖尿病ネットワークのオンライン申込みページよりお申込みください。
申込みＵＲＬ：http://www.dm-net.co.jp/event/ncgm-dm.html　※詳細は当会ホームページをご覧ください。

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：７単位
☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第２群＞：１単位申請中
☆日本糖尿病学会専門医更新単位：２単位申請中　☆日糖協療養指導医取得のための講習会：申請中

発行元
NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468　FAX:042(322)7478
http://www.nishitokyo-dm.net
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

### 編集後記

今年の糖尿病学会学術集会は下関ですね。普段行く機会の少ない地域での観光や食事も学会の楽しみの一つだと個人的には思っていますが、皆様はいかがでしょうか？

今回は日韓糖尿病フォーラムや肝臓と糖尿病・代謝研究会も同時開催されるので、学術的にも地域の経済的にもより大きい効果が期待できそうですね。多くの方々にとって、有意義な学会となりますように…。

（広報委員　杉山 徹）